

沼津高架P Iプロジェクト



第9回P I委員会 審議事項

【第9回P I委員会】

【審議事項 1】
ステップ 3 のプロセス評価について

ステップ3におけるP I 委員会の評価視点

	実施計画での評価の視点	ステップ3での評価の視点
1	多様な利害や関心を調整して互恵的な解決を模索しているか	ステップ3では具体的な地域づくりの方策(代替素案)を取りまとめるため、勉強会などの場では対立につながりやすいと考えられる。このため、様々な提案される方策に関して、相互に理解が進むような運営がなされているか？ また、市民が自ら地域づくりの方策(代替素案)をより良くするための運営がなされているか？
2	どのステップの検討をしているか明確にしながらか進めているか	ステップ3の検討段階であることが明示され、目的に沿った議論が誤解なくできるような努力がなされているか？
3	議論が混乱しないよう、各ステップの趣旨に応じた検討を行っているか	ステップ3の議論においては、それぞれの具体的方策を批判しあうことも予想される。このため、次ステップ以降の議論との混同を避けるとともに、議論が次ステップへと円滑に移行できるよう考慮して進めているか？
4	多様な利害や関心を踏まえた上で、目標や代替案、評価項目を設定しているか	多様な利害関心があるなかで、一定の共有化がなされた「地域づくりの目標」を共通の立脚点として、常にそこに立ち返りながら、議論の流れを確認するといった丁寧な進め方がなされているか？

ステップ3におけるP I 委員会の評価視点

	実施計画での評価の視点	ステップ3での評価の視点
5	市民や関係者との多重多層のコミュニケーションを行っているか	広報紙やオープンハウスなどの機会に限らず、車座談議などの直接的な双方向コミュニケーションの機会を引き続き設けるとともに、女性や若年層、各種の企業など、これまで接触が少ないステークホルダーも含め、幅広い対象とのコミュニケーションを継続しているか？
6	積極的かつ適切に情報を提供しているか、十分に意見を聴き、論点を把握しているか	勉強会での議論の状況を広報紙や車座談議などの手法を通じて広く共有するとともに、多様な意見を把握し、論点を整理しながら進めているか？議論に必要な情報は適切に提供されているか？
7	PI委員会の助言を踏まえて、適切にPIを実施しているか	<p>PI委員会の助言に対して、適切な対応がなされているか？</p> <p>1)女性や若年層を含め、より広範に議論の経過を継続的に情報提供すること。</p> <p>2)時間管理概念を再度認識し、俯瞰的な議論となるよう努めること。</p> <p>3)地域づくりの目標に立ち返りながら互恵的な議論とすること。</p>
8	その他	勉強会は、意図的な議論の打ち切りや遅延行為など不適切な運営はなく、適切な議論や時間管理がなされているか？

ステップ3における自己点検

	実施計画での評価の視点	ステップ3での評価の視点
1	多様な利害や関心を調整して互恵的な解決を模索しているか	ステップ3では具体的な地域づくりの方策(代替素案)を取りまとめるため、勉強会などの場では <u>対立につながりやすい</u> と考えられる。このため、様々な提案される方策に関して、 <u>相互に理解が進むような運営がなされているか</u> ？また、市民が <u>自ら地域づくりの方策(代替素案)をより良くするための運営がなされているか</u> ？

【自己点検】

- 勉強会では、対立構造に陥らないよう代替素案ごとに議論の時間を区切り、参加者全員が、全ての代替素案や様々な提案される方策に関して、立場を越えて議論を行えるような運営を行った。
- 勉強会での代替素案の検討にあたっては、まず、勉強会参加者から提案される様々な方策を事務局にて整理し、参加者自らが方策を選択できるように運営を行った。

ステップ3における自己点検

	実施計画での評価の視点	ステップ3での評価の視点
2	どのステップの検討をしているか明確にしながらか進めているか	<u>ステップ3の検討段階であることが明示され、目的に沿った議論が誤解なくできるような努力がなされているか？</u>

【自己点検】

- ニューズレター第6号にPIプロジェクトのプロセスを記載し、ステップ3の議論が始まっていることを明示した。
- オープンハウス等のPI活動時は、ステップ3の検討段階であることを常に掲示している。
- 勉強会においては、ステップ3の議論であることを参加者に説明している。

ステップ3における自己点検

	実施計画での評価の視点	ステップ3での評価の視点
3	議論が混乱しないよう、各ステップの趣旨に応じた検討を行っているか	ステップ3の議論においては、それぞれの具体的方策を批判しあうことも予想される。このため、 <u>次ステップ以降の議論との混同を避ける</u> とともに、議論が次ステップへと円滑に移行できるよう考慮して進めているか？

【自己点検】

➤ 勉強会では評価項目から検討・共有し、評価項目を代替素案を検討するための視点とすることにより、それぞれの具体的方策を批判するだけの議論とならないよう運営をした。また、ステップ4ではステップ3で議論した駅周辺、原地区それぞれの代替素案を組み合わせることを参加者に伝え、ステップ4のイメージを持ちながらステップ3の議論ができるよう配慮した。

ステップ3における自己点検

	実施計画での評価の視点	ステップ3での評価の視点
4	多様な利害や関心を踏まえた上で、目標や代替案、評価項目を設定しているか	多様な利害関心があるなかで、一定の共有化がなされた「 <u>地域づくりの目標</u> 」を共通の立脚点として、常にそこに立ち返りながら、議論の流れを確認するといった丁寧な進め方がなされているか？

【自己点検】

- 勉強会、車座談議ではステップ2の成果である「地域づくりの目標」に照らして整理した評価項目(案)を元に議論を行った。
- 勉強会では、「地域づくりの目標」の再確認を行うとともに、ファシリテーターの進行のもと必要に応じて「地域づくりの目標」に立ち返りながら議論を行った。

ステップ3における自己点検

	実施計画での評価の視点	ステップ3での評価の視点
5	市民や関係者との多重多層のコミュニケーションを行っているか	広報紙やオープンハウスなどの機会に限らず、 <u>車座談議などの直接的な双方向コミュニケーションの機会を引き続き設けるとともに、女性や若年層、各種の企業など、これまで接触が少ないステークホルダーも含め、幅広い対象とのコミュニケーションを継続しているか？</u>

【自己点検】

- 勉強会において、参加団体に女性の参加を呼びかけ、女性の意見を取り込んだ。
- 4/24～4/26のオープンハウスでは、女性が立ち寄りやすい食品売り場の近くで開催した。また、5/1のオープンハウスは若者が集まる商業施設にて開催した。
- ホームページ、FAXで常時意見を募集している。
- 5/29時点では、合同勉強会が終了したばかりであり、幅広い層の市民や関係者の方々と十分コミュニケーションが取れたとは言い難い。今後、車座談議やオープンハウスを積極的に実施していく。

ステップ3における自己点検

	実施計画での評価の視点	ステップ3での評価の視点
6	積極的かつ適切に情報を提供しているか、十分に意見を聴き、論点を把握しているか	勉強会での <u>議論の状況</u> を広報紙や車座談議などの手法を通じて広く共有するとともに、 <u>多様な意見を把握し、論点を整理しながら進めているか？</u> 議論に必要な情報は <u>適切に提供されているか？</u>

【自己点検】

- ニューズレター第6号を全市域を対象に新聞折込配布(7万8千部)した他、ホームページを充実し、勉強会に関する情報提供に努めている。
- 勉強会では、ファシリテーターを通じて議論に必要な情報を把握し、提供した。

ステップ3における自己点検

	実施計画での評価の視点	ステップ3での評価の視点
7	PI委員会の助言を踏まえて、適切にPIを実施しているか	<p>PI委員会の助言に対して、適切な対応がなされているか？</p> <p>1)女性や若年層を含め、より広範に議論の経過を継続的に情報提供すること。</p> <p>2)時間管理概念を再度認識し、俯瞰的な議論となるよう努めること。</p> <p>3)地域づくりの目標に立ち返りながら互恵的な議論とすること。</p>

【自己点検】

- 勉強会において、参加団体に女性の参加を呼びかけ、女性の意見を取り込んだ。
- オープンハウスを女性や若者が立ち寄りやすい場所にて開催した。
- 傍聴席の配置を工夫し、傍聴者や代理人が状況を把握しやすいようにした。
- 参加者からのリクエストに応じて必要な情報をその都度用意することや、参加者の独自の情報提供も可能とするなど、公正な情報提供を心がけている。

ステップ3における自己点検

	実施計画での評価の視点	ステップ3での評価の視点
8	その他	勉強会は、意図的な議論の打ち切りや遅延行為など不適切な運営はなく、 <u>適切な議論や時間管理</u> がなされているか？

【自己点検】

- 勉強会では、代替素案及び評価項目について十分な議論を行うため、時間が不足すると思われるときは、これまでよりも時間を延長(30分)して実施し、予定していた時間を大幅に延長することはなかった。
- ファシリテーターによるまとめの発表の際など、グループ検討の時間以外でも参加者が追加的に発言できる時間を設けた。
- 参加者からも、議論の時間が不適切だという評価はなかった。(アンケートより)

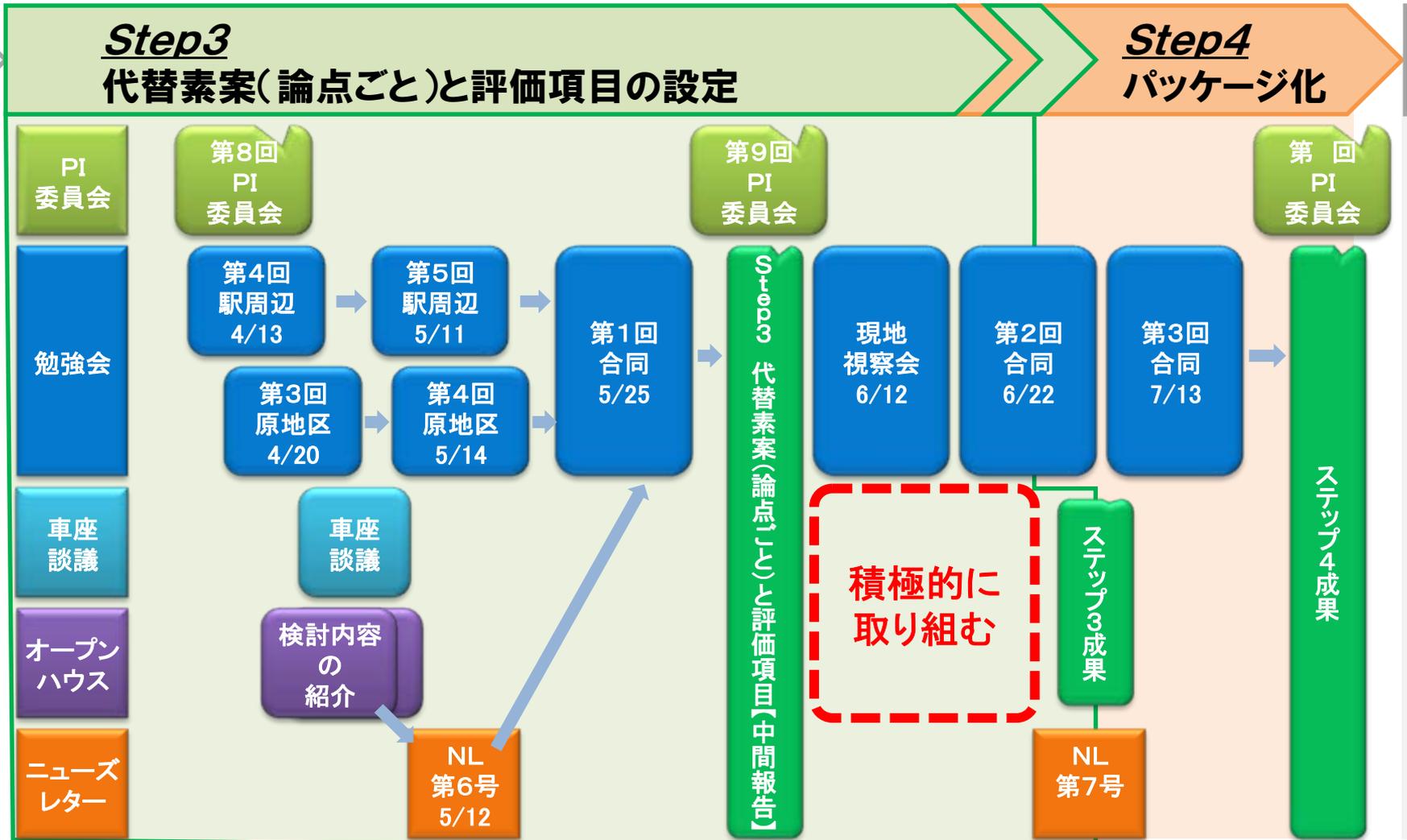
ステップ3における自己点検

【自己点検 総括】

- ▶ステップ3における評価項目については、勉強会においては概ね議論ができ、参加者間で共有できた。
- ▶代替素案については、駅周辺、原地区の勉強会とも活発な議論が行われ、大きなアイデアは出された。
- ▶勉強会への参加者以外の市民皆さんとのコミュニケーションについては、十分実施できたとは言い難い。今後、さらに検討の理解が進み、内容意見の幅の確保に努めていくよう車座談議やオープンハウスを積極的に実施していく。

【審議事項2】 ステップ3から4への移行について

ステップ3からステップ4への移行



ステップ3からステップ4への移行

【審議事項】

- ステップ3の終了は、車座談議、オープンハウスの取組み後、改めて自己点検を行い、委員の了承を得る。
- 第2回勉強会では先行してステップ4の検討を行う。

【審議事項3】

ステップ4のプロセス評価について

ステップ4の進め方

【事務局】

組合せ代替素案
(勉強会検討用)

組合せ代替素案
評価項目案
(勉強会検討用)

組合せ代替案
評価項目

【勉強会等】

第2回合同勉強会

第3回合同勉強会

広報紙や
オープンハ
ウス等での
意見

車座談議
オープンハウス

車座談議
オープンハウス

車座談議
オープンハウス

ステップ4におけるP I の評価の視点

	実施計画での評価の視点	ステップ4での評価の視点
1	多様な利害や関心を調整して互恵的な解決を模索しているか	<p>(ステップ4では、駅周辺と原地区での勉強会が中心となって検討してきた代替素案をパッケージ化するため、鉄道高架や貨物駅移転についての賛否や過去の経緯をめぐり、ステップ3にまして対立的議論に陥りやすくなると考えられる。)</p> <p><u>代替素案に関して、相互理解が進み、互恵的解決に向けた議論がなされるような運営が行われているか？</u></p>
2	どのステップの検討をしているか明確にしながら進めているか	<p>(ステップ4の検討において、新たな代替素案の追加を検討する必要性が生じる可能性がある。)</p> <p><u>新たな代替素案の追加検討を行う場合、その旨を明確にしながらステップ4と区別して進められているか？</u></p>
3	議論が混乱しないよう、各ステップの趣旨に応じた検討を行っているか	<p>(ステップ4の検討において、各地区ごとでの追加検討が必要となる可能性がある。)</p> <p><u>各地区における利害関心と、両地区を合わせた全体としての利害関心が混乱しないように整理しながら進められているか？</u></p>
4	多様な利害や関心を踏まえた上で、目標や代替案、評価項目を設定しているか	<p><u>利害関心の多様性を前提としつつ、一定の共有化がなされた「地域づくりの目標」を共通の立脚点として、常にそこに立ち返りながら議論を積み上げる</u> <u>といった丁寧な進め方がされているか？</u></p>

ステップ4におけるP I の評価の視点

	実施計画での評価の視点	ステップ4での評価の視点
5	市民や関係者との多重多層のコミュニケーションを行っているか	<p><u>広報紙やオープンハウスなどを用いて市民的議論としての幅の広さが保たれているか？</u></p> <p><u>車座談議などの直接的な双方向コミュニケーションの機会を通じて、様々なステークホルダー(利害関係者)との対話が継続されているか？</u></p>
6	積極的かつ適切に情報を提供しているか、十分に意見を聴き、論点を把握しているか	<p><u>勉強会においてどのような議論がなされているのか、広く共有されているか？</u></p> <p><u>勉強会での議論の状況に則した情報を提供し、論点を絞り込んだ意見の把握がされているか？</u></p> <p><u>実現可能性やコスト、その効果などの技術情報が判断の重要な要素となるため、様々な代替案を予断なく検討し、その結果が幅広く情報提供されているか？</u></p>
7	PI委員会の助言を踏まえて、適切にPIを実施しているか	<p><u>PI委員会の助言に対して、適切な対応がなされているか？</u></p> <p>1)女性や若年層を含め、より広範に議論の経過を継続的に情報提供すること。</p> <p>2)時間管理概念を再度認識し、俯瞰的な議論となるよう努めること。</p> <p>3)地域づくりの目標に立ち返りながら互恵的な議論とすること。</p>